

SCG004-02

会場: 302

時間: 5月25日09:15-09:30

2008年岩手・宮城内陸地震の震源域における詳細な地震波減衰構造

Detailed seismic attenuation structure in the focal area of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku earthquake (M7.2), NE Japan

四ヶ所 健太^{1*}, 岡田 知己¹, 中島 淳一¹, 速水 絵里圭¹, 海野 徳仁¹, 長谷川 昭¹,
2008年岩手・宮城内陸地震合同余震観測グループ¹

Kenta Shikasho^{1*}, Tomomi Okada¹, Junichi Nakajima¹, Erika Hayami¹, Norihito Umino¹,
Akira Hasegawa¹,
Group for the aftershock observation of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake¹

¹東北大・理・予知セ

¹RCPEV, Grad. Sch. of Sci., Tohoku Univ.

2008年6月14日に岩手県南西部から宮城県北西部にかけての領域でM7.2の地震が発生した。この地震は東北脊梁山地歪集中帯で発生した。地震発生後、2008年岩手宮城内陸地震余震観測グループによって臨時観測が行われた。余震の震源分布からは本震震源付近に傾斜角約40°の西傾斜の余震の並びが見られ、逆断層型の浅い内陸地震であった。また、震源域深部には低速度領域が見られた(Okada et al., 2009)。

本研究では、臨時余震観測点と定常観測点で得られたデータを使用し、震源域における詳細な地震波減衰構造を推定した。その結果、震源域の深部に顕著な高減衰領域を発見した。その広がり・位置は概ね低速度領域のそれと対応している(Okada et al., 2009)。このような高減衰・低速度域は、震源域深部の高間隙圧流体の存在により説明することができる。このことから、岩手・宮城内陸地震の発生に高間隙圧を持つ地殻流体が関与したと考えられる。